

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成28年6月13日
タイトル	じょうずに植えたよ！初めての田植え！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成28年6月3日（金）福山市松永町の学校法人杉原学園 松永幼稚園年長組103名が、福山市東村町にある水土里ネット福山の組合員のかいのあきのり 廻野明倫さんのほ場約17aで、田植えの農業体験をしました。

子ども達は、田植えの前に福山市東村町のかかし資料館を見学し、昔ながらの農機具などの説明を聞きました。地域の方が「昔はこんな道具で人や牛が耕していたんだよ。あとで廻野さんの田植え機がどうやって植えるかしっかり見てね。」話しておられました。



見学を終えると歩いてほ場まで移動し、田植え体験をしました。

子ども達は、3組に分かれ一組ずつ田んぼへ入ります。初めて田んぼに入った子ども達は「キヤー」と歓声をあげながら、一步一步田んぼの奥へ進みます。一緒に入る保護者の方も足元に気を付けて慎重に歩いていました。一人3ヶ所植えて10列植えました。初めは恐る恐る苗を持って土に手を入れていましたが、2列目では慣れ、とても楽しそうに植えていました。



廻野さんの説明を聞く子ども達と保護者のみなさん。みんな真剣な表情です。

「恋の予感」という品種で、子どもが植えやすいように3本の苗が1つのポットになっているものを使いました。

親子のスキンシップにもなったようです。



一人30株植え、約100人の子どもさんなので、3000株の苗を植えたことになります。

白組が田植えをしている間、ほかの2つの組の子ども達は近くで応援していました。自分たちの順番が来ると、裸足になり「キャー」と歓声をあげながら、田んぼに入っていました。入れ替わりに、田植えが終わった子ども達は、廻野さんが用意してくださったタンクの水で足や手の泥を洗い流して、お友達の応援をしていました。

一番に田植えが終わって待っている子ども達は、周りの草やカエル、虫に興味津々で、カエルや虫を捕まえたりしていました。まさに田んぼは自然の教室です。

子ども達の田植えが終わると、廻野さんが田植え機で颯爽と田植えをして見せてくださいました。子ども達は、カッコいい田植え機を見入っていました。みんなで2時間かけて植えた面積をビューンと往復したら植えてしまいました。



保護者の方が

「最新の田植え機で植えるところが見られてよかった。手で植える大変さと比べて、技術の進歩がよく分かる。」
とっておられました。



待ち時間を利用して、子ども達と保護者に目の前のある農業用水路など、転落防止の呼掛けをしました。みんな真剣に話を聞いてくれました。転落防止呼掛けのチラシと福山市上下水道局から提供の災害備蓄用飲料水「ばらのまち福山の水」を配布しました。

最後に廻野さんに大きな声で「ありがとうございました。」「稲のお世話をお願いします。」と言いました。



これから子ども達は、稲の成長を見守り、秋には稲刈りを体験します。収穫した米でおにぎりパーティーを開く予定となっていて今から楽しみにしています。これらはその都度取材して情報提供してまいります。

